

# 野嵩 歴史文化遺産マップ



## 8 ミーガー跡

首里王府からの指令で新松川(屋号)の祖先が掘ったと伝えられています。水量は豊富で収容所時代にも多くの人々が利用しました。市道建設で埋め立てられ、現在は碑と祠が建てられています。



## 9 野嵩慰霊之塔

1977(昭和52)年12月に建立されました。この塔には戦没者307柱が祀られています。慰霊祭は毎年「慰霊の日」後の日曜日に行われています。



## 10 トウニムートウ

集落の守り神である天の神、地の神、龍宮の神が祀られており、旧暦8月15日のウチチウマチーの際に祈願します。



## 1 ウガンヌカタ

集落の東の神であると言われ、旧暦8月15日のウチチウマチーの際に祈願しました。行事の際には神酒をもらいにウガンヌカタへ行きました。



## 2 野嵩石畳道

琉球王国時代に整備された首里から中城間切への公道(宿道)の一部で、野嵩区から我謝橋までの高低差34m、長さ120mの急坂に造られた石畳道です。護佐丸と阿麻和利の戦いに由来をもつスティバナビラという別名も持ち、現在は約60mが残っています。市指定史跡です。



## 3 ハウスナンバー32

収容所を管理する米軍が付けた番号で、住所のような役割をはたしました。番号は163番までありましたが、現在は32番のみ残っています。



## 4 MP事務所として使われた家

MP(憲兵)隊事務所として使用されていた屋敷で、MP隊がよそへ移動すると警察署として利用されました。ヒンブンの上に米兵がビール瓶を置き、銃で撃って遊んだそうです。



## 5 野嵩クシヌカー

集落東側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。収容所時代は単作業の洗濯場でした。市指定史跡です。



## 6 メーヌカー

集落南側にある石積みのムラガーで、生活用水・ウブミジ(産水)・ワカミジ(若水)を汲む場所として人々の暮らしを支えてきました。



## 11 根屋の拝所

集落に古くからある家の拝所です。マールアシビの際に祈願します。



## 12 ヌンドウチ

野嵩ノロを輩出した家で、マールアシビ行列の出発地点。ヌンドウチとその斜め向かいの東中加(屋号)の仏壇を拝んでから道ジュネーが始まりました。マールアシビの衣装や旗頭、ミルク(弥勒)等を管理していました。屋敷の東側にウカミヤ(御神屋)があります。

## 14 ちなみちもうい(ナカミチ)

もとは、旧暦6月の綱引きの際に、土気を高めるために踊っていた女性たちの踊りです。隊列を組み速いテンポで太鼓を打ち、歌を唄いながら足さばきで到るまで動作を合わせて踊るような例は他ムラにはほとんどなく、近隣から多くの人々が見物に訪れました。1991(平成3)年に復活させて以降は、ひとつの行事として現在まで継承されています。当日の夕方はテークドゥール(太鼓灯籠)を先頭に、銅鑼・ほら貝などの鳴り物、女性達と続いて道ジュネーを行い、かつて綱引きを行っていたナカミチの旧カナチグチ辺りで踊りを披露します。夜になると野嵩あしび庭で踊りを披露します。



## マールアシビ(豊年祭)

子・午年の旧暦8月15日に、アシビナー(現在の「野嵩あしび庭」)で行われます。1860年頃から始まったと伝えられ、開催された年から数えて次に開催されるまで7年あることから、「シチネンマール(7年廻る)」「マールシ」とも呼ばれています。当日は祈願を終えた後、道ジュネーを行い、舞台上では組踊や歌劇等様々な舞踊が披露されました。かつては男性のみの配役でしたが、現在は女性も参加し盛大に開催されています。



※ 15 16 18 は、現存していません。

※ 私有地にある場合もありますので、見学の際は注意しましょう。



## 13 地頭火の神

地域の方によると、この地頭火の神は各家庭に祀られている火の神と同じで、野嵩集落の火の神を祀っているそうです。以前はトウングワグムイに隣接していました。

## 15 タキジョウガマ

大人の目線ほどの高さまでアーチ型の石積みがあった入り口を、少し下りると横穴になっていました。周囲から雨水が流れ込みましたが、戦時中にはクシダカリ(後村渠)の避難壕として利用されました。

## 16 ターバルガマ

タキジョウガマよりも広く、長さ 1,300m もありました。中は地下水が流れ湿度が高かったので、若い女性はガマの中でバナ帽を編みました。また、村芝居の練習ははじめガマで行い、上手くなってからムラヤ(村屋)で行ったそうです。戦時中にはメンダカリ(前村渠)の避難壕として利用されました。



## 17 野嵩タマタ原遺跡

ブスク時代から現代までの継続した畑跡が確認されました。小さい穴が列状で等間隔に並ぶ様子から、穀類の種を蒔く穴かイモなどの作物を植える時の耕作痕だと考えられます。

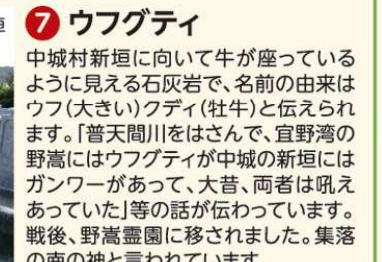
## 18 野嵩上後原古墓群

近世から戦後まで使用された古墓群で堀込墓や亀甲墓が混在しています。織布片の付着した針の束が見つかるなど、チンダンプフルの証明となる出土品もありました。※チンダンプフル: 銭貨と束にした縫い針を小さな袋に入れて副葬品とするもの。「シマの話」佐喜真興典著にも記載あり。



## 7 ウフグティ

中城村新垣に向いて牛が座っているように見える石灰岩で、名前の由来はウフ(大きい)グティ(牡牛)と伝えられます。「普天間川をはさんで、宜野湾の野嵩にはウフグティが中城の新垣にはガンワアがあって、大昔、両者は吼えあっていた」等の話が伝わっています。戦後、野嵩霊園に移されました。集落の南の神と言われています。



## 19 イーヌタキ

集落西側の山頂にある拝所で集落の北の神と言われています。1982(昭和57)年の改修でコンクリート製の祠が建てられました。マールアシビの前には出演者がイーヌモーに上って歌い、ムラヤまで声が届くかを調べて配役を決めるピーシラビ(声調べ)が行われました。



## 20 ビンジリの拝所

集落の西の神であると言われていす。元は山林でしたが普天間飛行場の建設用に採石され、大きな窪地となりました。埋め土をして平らにし、現在は駐車場となっています。